

「母校愛のリレー」の軌跡

「母校愛のリレー」理念

- 1.卒業30周年という節目の年に、母校への感謝の意を示し、記念品を贈ること。
- 2.母校を愛する心の大切さを後輩に伝えること。
- 3.年齢的に重要な人生の節目に、旧友との結束を図り、一つの事業を成し遂げることによって、さらなる発展の礎とすること。



図書券・設備充実費を中村校長へ贈呈する中島実行委員長



創立記念日に母校に集まった同期生

記念事業概要

- 1.「第70回母校創立記念式典」への対応
平成4年4月18日(土) 母校体育館
(1) 図書券50万円・設備充実費50万円の贈呈
(2) 記念講演 メイン講師1名・サブ講師5名
(3) 三七会懇親会 「桃林」会員70名参加
- 2.三七会卒業30周年記念事業
(1) 祝賀会 平成4年8月8日(土)
ホテルブエナビスタ 会員100名が集合!
(2) 記念ゴルフコンペ 平成4年8月8・9日
松本浅間カントリークラブ
(3) 三七会名簿の作成
(卒業者数335名・確認者数292名)
(4) 記念誌の発行 平成4年12月25日
(5) 記念事業収支総額 5,018,832円
(募金206名、記念誌広告22件、その他)



30周年記念事業実行委員の皆さん



昭和37年3月卒業「サンナ会」

記念講演

■メイン講演 高島俊夫(小児科医師) 「社会環境と健康～エイズ問題を中心に」

健康は人間生活の基本であり、人類の願いである。しかし、現代社会では私たちの心と体の健康を損なう、様々な要因が増加している。特に最近、社会問題になっているエイズもそのうちの一つである。として、先ずエイズとはどのような病気を述べ、その原因と感染経路、現況、発病後の経過、治療の実態とその予防等についての講演内容であった。



記念講演のメイン講師 高島医学博士

■ミニ講演

- (1) 中島 嘉尚 (弁護士)



「人生を考える糧」

- (2) 中野 幹隆 (哲学書房主宰)



「書物の思考と思考の書物」

- (3) 高山千枝子 (管理薬剤師)



「1g当量の付けと未来に向けて」

- (4) 塚田 直敬 (信大医学部教授)



「高校における保健衛生」

- (5) 荻須 真教 (玄向寺住職)



「心の安らぎ」

母校愛のリレーの素晴らしさ!

「母校愛のリレー」を三七会が情熱を燃やし一丸となって取り組み大成功のうちにやり遂げて以来、早や16年が経過をした。

母校愛のリレーは、新制高校初期卒業生の発案により、昭和55年から始められ、今や母校の伝統事業として受け継がれ、母校及び同窓会の揺るぎない発展の礎となっていることに敬意を表したい。この事業が発足以来、各卒業年度の創意と工夫により立派に継承されている背景には、その趣旨と意義である理念が明確になっていることと、毎

年、きめ細かな「母校愛のリレー引継会」が的確に行われていることがあると思う。そして、この事業をやり遂げたことにより得られる尊いものとして、母校愛の醸成はもとより、同期会の結束と強い絆が生まれ、五十路を迎える人間としての貴重な教訓であった。まさに、愛とは無私なる奉仕の精神であり、自他一体の考えであり、このような精神のもとでの感動と報恩の約2年余りの熱き活動を通して、大いなるものへの気づきを教えていただいた機会であったと思う。